塗師　赤木明登
作陶家　髙木逸夫
彫金師　竹俣勇壱
（作品のみ）

赤木と 髙木と 展

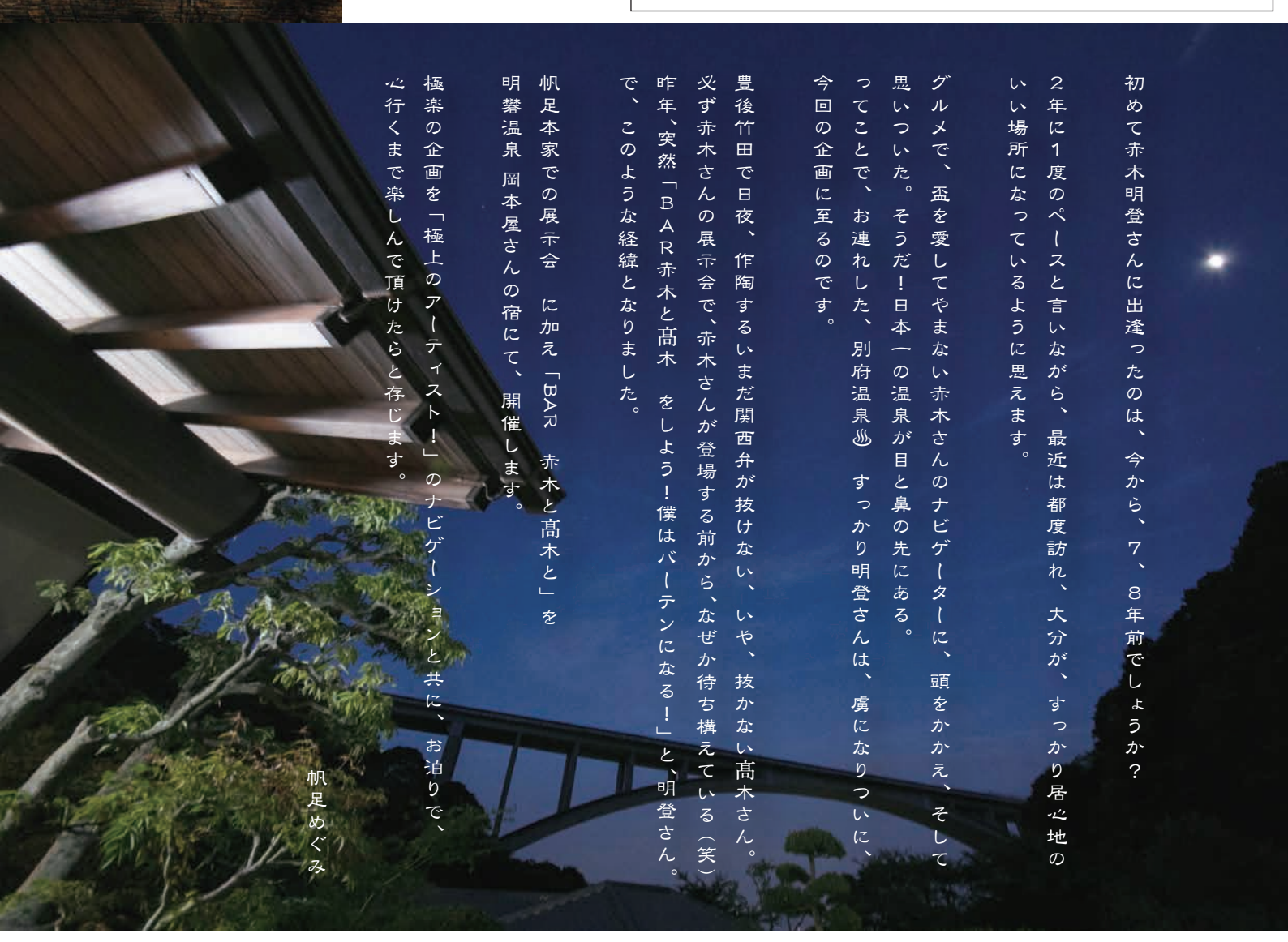
2019年
6月8日（土）～
6月16日（日）
10：00 ～ 17：00
月曜定休
作家在廊日　6月8日（土）

【トークイベント】「つくる・のむ・かたる」

6月8日（土）14：30－15:30　（無料）

赤木明登 × 髙木逸夫　聞き人　帆足めぐみ
場所：帆足本家富春館　ギャラリー

実は同じ年だったという、赤木さんと、髙木さん。
それぞれの作品のプロセス･思い･lifestyle、地域の魅力（ヒト、食、自然、温泉･･）ご馳走の話など、お酒を飲みながら、存分に語っていただきます。



初めて赤木明登さんに出逢ったのは、今から、7、8年前でしょうか？
2年に1度のペースと言いながら、最近は都度訪れ、大分が、すっかり居心地のいい場所になっているように思えます。
グルメで、盃を愛してやまない赤木さんのナビゲーターに、頭をかかえ、そして思いついた。そうだ！日本一の温泉が目と鼻の先にある。
ってことで、お連れした、別府温泉♨　すっかり明登さんは、虜になりついに、今回の企画に至るのです。
豊後竹田で日夜、作陶するいまだ関西弁が抜けない、いや、抜かない髙木さん。
必ず赤木さんの展示会で、赤木さんが登場する前から、なぜか待ち構えている（笑）
昨年、突然「BAR赤木と髙木　をしよう！僕はバーテンになる！」と、明登さん。
で、このような経緯となりました。
帆足本家での展示会　に加え「BAR　赤木と髙木と」を
明礬温泉 岡本屋さんの宿にて、開催します。
極楽の企画を「極上のアーティスト！」のナビゲーションと共に、お泊りで、
心行くまで楽しんで頂けたらと存じます。
帆足めぐみ

「BAR 赤木と髙木と」in みょうばん温泉

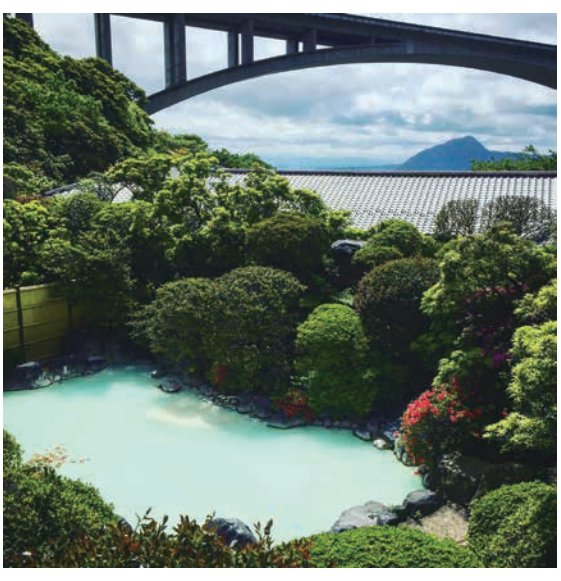
ご馳走 × ナチュラルワイン ×　赤木明登氏　髙木逸夫氏の器 × 宿　岡本屋

開催日時

6月8日（土） お食事 **19：00～**
「BAR 赤木と髙木と」**21：00～23：00**

開催場所

食事と宿　明礬（みょうばん）温泉　岡本屋
創業明治８年
硫黄泉の蒸気で作る地獄蒸し料理とともに、庭園露天風呂もご体験ください。



日本一の湯量・泉質を誇る別府温泉。
豊かな自然の中、岩の間からモクモクと吹き出す湯煙。
それは自然が作った芸術の景色。
ヴェールのように柔らかな淡い青みを帯びた「ミルキーブルー」の温泉とともに、明礬地獄蒸しを堪能されませんか？

参加費

1泊2食付き飲料代込み（食事、BAR 共）
お一人 32,000 円＋税＋入湯税 250 円
・人数：30 名様（お申込み期限 2019 年 6 月 6 日／ 2 名様～承ります。）
・時間：check in 15：00 ～ 18：00 ／ Check out 10：00
・お食事：start 19：00 ～
「BAR 赤木と髙木と」open 21：00 ～ 23：00
・ご予約：**0977-66-3228**【岡本屋】

アルコールを飲まれない方は、ノンアルコール飲料をご用意いたします。
※料金のお支払いは、現金または、カード（VISA・master）払いとなります。
駐車場は予約制です。お車でお越しの方は事前にお知らせください。

協力
器　塗師　赤木明登
陶芸家　　髙木逸夫
ナチュラルワイン　太田久人

アクセスご案内

【大分空港～富春館】
●空港バス→大分駅 60 分→バス 35 分
→戸次郵便局前下車徒歩 5 分
●大分駅→中判田駅下車　タクシーで 5 分
●大分駅→タクシーで約 20 分

【大分空港～岡本屋】
●大分・別府行き空港バス→40 分
観光港バス停下車→タクシーで約 15 分
●車で、大分空港道路・東九州街道・別府湾 SA スマート IC
利用の場合　約 45 分

【岡本屋～富春館】
●車で、別府 IC→米良 IC 下車 10 分
所要時間３５分※タクシーを乗り合うと便利です。
●タクシー（車）で別府駅 20 分→大分駅 20 分
→バス乗り換え３５分　戸次郵便局前下車徒歩 5 分
●大分駅からタクシーにて 20 分

【富春館～岡本屋】
●戸次郵便局前バス停→大分駅 35 分
or 中判田駅→大分駅 20 分→別府駅 20 分
→タクシーで約 20 分 or バス（明礬バス停）約 35 分
●トークイベントの後、岡本屋さんへは、車（タクシー）を乗り合うと便利です。車で約 40 分

岡本屋 MAP

富春館 MAP

明礬温泉　岡本屋
〒874-0843　別府市明礬４組
TEL：**0977-66-3228**
https://www.okamotoya.net/

帆足本家　富春館（「赤木と髙木と」展示会会場）
〒879-7761　大分県大分市中戸次 4381
TEL：**097-597-0002**
http://www.hoashi-honke.com/

赤木明登

塗師。1962 年生まれ。輪島市出身の漆工芸家・故角偉三郎氏と出会いから、衝撃を受け、漆職人になることを決意。編集者を経て、輪島塗の下地職人・岡本進のもとで修業。1994 年独立。家族と輪島で暮らす。途絶えつつある日本の伝統、漆塗を、赤木式の育成（『上塗り』のパートを担いつつ、全体をプロデュースしていく役割）を弟子たちに伝えながら、現代の暮らしに息づく生活漆器「ぬりもの」の世界を切り開く。著書『美しいもの』『美しいこと』『名前のない道』『二一世紀民藝』など。

髙木逸夫

1985 年長野県「奥信濃焼」窯元にて学ぶ。89 年兵庫県、滴翠美術館付属陶芸研究所専攻科卒業。92 年大分県清川村に移住。2005 年くぬぎ林のある山並みと、水がキレイな竹田の環境に魅せられ竹田市に移動０８年自作の薪窯自作築炉「薪窯の 1250 度前後は”人の入れない神の領域”　思った風にはならないからそこを想像して作っていくのが、焼き物の面白み」という。

竹俣勇壱

彫金師。1975 年金沢生まれ。95 年より彫金を学び始め 2002 年独立。2004 年、「KiKU」オープン。オーダージュエリーを中心に活動、2008 年ジュエリーに加え生活道具、茶道具の制作を始める。2010 年「sayuu」オープン。２店舗のショップを中心に全国で展覧会を開催。機能や技法にとらわれず意匠的な美しさを追求し時を経た様な古色仕上げ精密な鏡面仕上げなど様々な加工を使い分ける。金沢大学 非常勤講師。

太田久人

自然派ワイン「ヴィナイオータ」代表。ワインを中心に、各種食品も扱うインポーター（輸入元）。年、土地、品種、ヒトの個性、想い、哲学、理念。造り手が“我”を捨てて、その時、その瞬間の良心、覚悟、情熱などが詰まった唯一無二の個性あるプロダクトがもたらす感動を、皆さんと共有すべく、熱苦しくご紹介することをモットーとしている。